

まえがき

本報告書は、緑化生態研究室が平成 22 年度に行った調査・研究の概要ならびに、当研究室のスタッフが平成 22 年度に学会や雑誌などで発表した論文を収録したものです。

平成 22 年度に実施した調査・研究課題は、大きく以下の 5 テーマに分類されます。

- ① 地球温暖化対策に関する研究
- ② 環境影響評価の技術支援に関する研究
- ③ 外来生物等への的確な対応に関する研究
- ④ 景観の保全と再生に向けた技術支援に関する研究
- ⑤ 樹木管理の高度化に関する研究

「① 地球温暖化対策に関する研究」では、樹木の CO₂に着目した LCA（ライフサイクルアセスメント）に関する研究を実施しました。

「② 環境影響評価の技術支援に関する研究」では、DNA やマイクロチップを活用した生息地分断影響予測手法や、環境保全措置の事後調査手法等に関する研究を実施しました。

「③ 外来生物等への的確な対応に関する研究」では、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクの防除手法の確立に関する研究や、外来種を用いないのり面緑化手法の開発等に関する研究を実施しました。

「④ 景観の保全と再生に向けた技術支援に関する研究」では、美しいまちづくりに向けた公共事業の景観創出の効果分析に関する研究や、歴史的風致形成に資する建造物等の保全・活用方策に関する研究等を実施しました。

「⑤ 樹木管理の高度化に関する研究」では、公園樹木や街路樹の成長特性の把握や管理の高度化に関する研究を実施しました。

「みどり」は、生物多様性を支える生き物の生息場となる他、CO₂の固定吸収、ヒートアイランドの低減、快適性、美しさ、自然とのふれあいの場の提供など様々な効果があり、その効果を国民一人一人が等しく享受することが求められています。また生物多様性においては、道路・河川・都市・公園など社会資本整備のあらゆる場面で、自然環境に配慮し生態系を保全するとともに、失われた自然環境を積極的に再生することが求められています。

緑化生態研究室では、国土技術政策総合研究所の研究方針として掲げられた 6 つの「重点的に取り組む研究課題」のうち、「環境と調和した社会の実現」を中心に「動物」「植物」「景観」を対象とした研究テーマを設定し、国土交通省本省の技術政策の企画立案に必要な政策支援や、政策実現のために必要な技術開発並びに技術基準策定等を支援することとしています。私たちは、研究成果に対する皆様からの評価やご意見を踏まえつつ、上に示したような研究を通して、より良い政策提言の発信に向けて努力していきたいと考えています。

末尾ながらこれまでの関係の皆様のご指導、ご協力に感謝するとともに、緑化生態研究室に対する変わらぬご支援をお願いする次第です。

平成 24 年 1 月

国土交通省国土技術政策総合研究所
環境研究部 緑化生態研究室長
松江 正彦